2 都市の機能・魅力の向上

中規模オフィスビル「REVZO」シリーズの展開

当社グループでは、「はたらく」を解き放つ、をコンセプトとする中規模オフィスビル「REVZO」シリーズを展開しています。多様化するオフィスニーズを背景に、機能性やデザイン性に加え、オフィスワーカーが健康的に、自由に、いきいきと働ける環境の提供を目指しています。なお、第5弾となる「REVZO新橋」（2026年2月竣工）は、シリーズ初の木造・木質化を実現したオフィスビルです。
「REVZO」シリーズでは、ワーカーや来訪者の快適性向上と脱炭素社会への貢献の両立を目指し、今後も開発を進めていきます。

REVZO虎ノ門

REZVO新橋

高齢者向け住宅の開発・取得

首都圏を中心に、高齢者向け住宅の開発を進め、有料老人ホーム・賃貸住宅・店舗一体の複合施設「サニーライフ北区豊島」や、東京学芸大学附属高等学校の敷地の一部を活用した「グランダ下馬」などを展開しています。「グランダ下馬」では、地域交流スペースを設け、高校生と入居者の世代間交流プログラムを実施しているほか、屋上に太陽光パネルと大容量蓄電池を設置し、災害時のライフライン維持にも配慮しています。
加えて、三井物産株式会社の米国子会社であるMBK Real Estate LLCグループが保有・運営するシニアレジデンスの持分を取得し、カリフォルニア州においてグループ初となる米国でのシニアレジデンス事業にも参画しています。

グランダ下馬

カリフォルニア州リバーサイドの
シニアレジデンス

2 都市の機能・魅力の向上

スマートビルディングへの取り組み

大型ビルの一部において、館内データの収集・活用や各種設備のデジタル連携を進めています。「ミタマチテラス」は、館内データを収集・解析・活用する“環境配慮型スマートビル”として、テナントがスマートフォンやPCから空調・照明・ブラインドを操作できるほか、共用部の混雑状況もリアルタイムで確認できる環境を整えています。加えて、IoTセンサーやAIカメラ、無人受付システムなどを導入し、テナント・施設利用者と、ビルオーナー・管理者双方の利便性向上や業務効率化を図るとともに、災害時の安全確保にも活用しています。

また、2027年10月竣工予定の「TORANOGATE」では、NTTドコモビジネス株式会社が提供する次世代型統合ネットワーク「Passive Optical LAN（POL）」を国内オフィスビルで初めて採用し、消費電力の削減とエネルギー効率の向上を図る計画です。

スマートホームへの取り組み

「バウスフラッツ蔵前」では、スマートホームサービス「HOMETACT」を全戸に標準採用し、顔認証によるエントランス解錠や、照明・カーテン・家電製品の操作をアプリや音声で行える環境を整えることで、入居者の利便性・快適性の向上と物件の付加価値創出に取り組んでいます。導入効果の検証を進め、既存および新規物件への展開も検討しています。

「ミタマチテラス」のスマートビル仕様（建物全体）

エネルギーの見える化

全体エネルギー使用量をサイネージに表示。各テナントのエネルギー使用量はスマートフォン、PCで確認可能。

被災度の判定

災害時に被災度判定システムにより、ビルの安全状況を確認。サイネージで情報提供を行います。

無人受付システム

混雑度の検知

各種お役立ち情報表示

「バウスフラッツ蔵前」のスマートホームサービス仕様

出発時	スマートスイッチ［消灯］	スマートカーテン［全閉］
	エアコン［運転停止］	お掃除ロボット［運転開始］
帰宅前	スマートスイッチ［点灯］	スマートカーテン［全開］
	エアコン［適温で運転開始］	給湯［お湯はり］